

# Citizens Net for Habitat Fukuoka ハビタット福岡市民の会

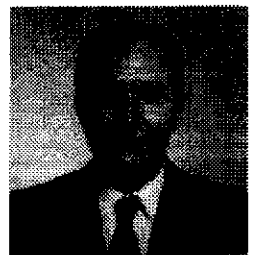
市民の会通信 第2号  
1999年9月1日 発行  
ハビタット福岡市民の会



## ハビタット福岡事務所開設2周年おめでとう

### ハビタット福岡事務所開設2周年にあたって イグナシオ・アルミヤス所長のメッセージ

It is with great pleasure that we, at the UNCHS (Habitat) Fukuoka Office, extend our greetings to all the members of the *Citizens Net for Habitat Fukuoka*. In the past two years, since we transferred the management of all of Habitat's activities in Asia and the Pacific from Nairobi to Fukuoka much has been accomplished. All of these work would not have been possible without the strong support received from the Japan's National Land Agency, Fukuoka Prefecture and City Governments, and our sponsors, the International Exchange Foundation. In addition, the recently established *Citizens Net for Habitat Fukuoka* is already providing valuable support to our activities.



イグナシオ・アルミヤスさん

This Office is very grateful for the support offered by citizens of Fukuoka and we look forward to a very productive relationship with this organization in the years to come.

私たちは、2年前にアジア・太平洋地域での活動本部をナイロビからここ福岡に移して以来、多くの成果を上げてまいりました。このような活動も、日本政府、国土庁、福岡県、福岡市、協力委員会の企業、各支援団体、福岡県国際交流センターの力強いご支援なしに行うことはできませんでした。またハビタット福岡市民の会も結成され様々な活動で協力していただいております。私たちは皆様の支援に感謝するとともに、これからもより実りある関係を楽しみたいと願っています。

### ハビタット福岡事務所開設2周年記念 写真展 開催

#### カンボジアの居住環境の現状と福岡からの協力

ハビタット福岡事務所開設2周年を記念し、7月19日から25日までの7日間、アクロス福岡2階メッセージホワイエにて、カンボジアに関する写真展が開かれました。フォトジャーナリストの阿佐部伸一さんによる34枚の写真とともにカンボジアの歴史、現状が伝えられました。たくさんの方が足を停めて見ていかれ、それぞれ、いろいろなことを感じられたようです。

#### ～写真展のアンケートより～

- 「いつか近い将来もっと、(カンボジアに関する活動に) 参加することができ、行動がおこせるとおもいます。」(40代男性)
- 「カンボジアの姿がよく見えてきました。」(10代女性)
- 「もう戦争は終わったものと思っていたのにまだまだ苦しんでいる人が多いことに驚いています。」(50代女性)
- 「涙がでそうになった。みんながみんな明日に訪れるかも知れない死と向かい合っている。深刻で美しい目をしている。それを少しうらやましいと感じる自分自身を恐ろしく感じた。もう少し隣国や世界情勢に目をむけなければと痛感した。」(20代女性)

#### 目次

ハビタット福岡事務所 開設2周年記念	1
佐藤摩利子さんインタビュー	2
公開セミナーの報告	2
第3回勉強会報告	
カンボジアの状況	3
公開セミナーの報告	
カンボジア地域活動報告	3
お知らせ・行事案内	4
入会のご案内	4

#### 市民の会の定例会

(予定)

9月16日(木)

10月28日(木)

11月18日(木)

19:00~21:00

初めての方は18:30からの

カンボジアに参加してください

場所：ハビタット福岡事務所

または福岡市役所北別館会議室

## ハビタット福岡事務所開設2周年記念

### 公開セミナー カンボジアの居住環境の現状と福岡からの協力

公開セミナーでは、福岡事務所を代表してマダブ・マテマさんの挨拶の後、ハビタット福岡事務所人間環境アドバイザーの佐藤摩利子さんに「カンボジアの現状とハビタットのカンボジアにおける活動について」と題して講演を行って頂きました。佐藤さんはカンボジアのプロジェクトの担当官であり、現地の居住環境と福岡事務所による現地支援プロジェクトについて、平易な言葉で聴衆に語りかけ、大好評でした。

ハビタットが行う援助は決して上からの押しつけや、いわゆる先進国の価値観に基づいて行われるのではなく、あくまでも受益者である住民参加型の都市開発であることについて具体例を交えた説得力のある話が展開され、参加者は新鮮な驚きを覚え、「援助」という言葉の持つイメージが変化したとの反応が多くありました。貧困が更なる貧困を引き起こすという悪循環を断ちきるために、ハビタットのプロジェクトは水やトイレなどの基本的サービスを提供

し、住環境の向上を支援しています。「魚をあげるのではなく、釣り方を教える。」という佐藤さんの言葉に、プロジェクトを通して住民の経済的、社会的自立を促進するというハビタットの理念が感じられました。

最後はフォトジャーナリストの阿佐部伸一さん、明日のカンボジアを考える会事務局長の西嶋克司さんを招き、市民の会の松田美幸さんをコーディネーターに迎えパネルディスカッションを行いました。パネリストからは「自分たちがやっていることは彼らの役に立っている」と思うことは往々にして援助側の自己満足に過ぎず、「援助一善」という公式は成り立たないといった趣旨の発言があり、はっとさせられました。

参加者の方にはハビタット福岡事務所の存在を初めて知ったという方も多く、ハビタットの活動を市民の方に知ってもらい、国際協力に自分なりにどう関わっていくか、一緒に考える機会をもつという今回のセミナーの目的を達成することができたと感じています。

担当：広渡 紀美子



佐藤 摩利子さん

### 国連人間居住アドバイザー 佐藤 摩利子さんにインタビュー

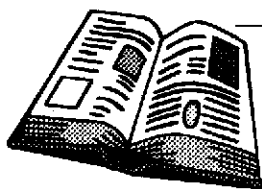
7月26日のセミナーでは、時にユーモアを交えながら、分かり易く、カンボジアでのプロジェクトについて報告して下さったのが、ハビタット福岡事務所唯一の日本人専門職である佐藤摩利子さんです。

佐藤さんは、アメリカで女性学や開発学について学ばれた後、NGOでの活動を経て1998年4月にハビタット福岡事務所に着任されました。ハビタットでは、お話をあつたカンボジアをはじめ、インド、タイ、ラオスでの技術サポートや女性についてのプロジェクトを担当されています。

カンボジアでのプロジェクトについて聞いてみたところ、「プロジェクトによって住環境が良くなり、人々に自信が戻った。住民が自立していき、そのことでお互いが団結するようになった」とのこと。ポルポト時代に過酷な時代を経験し住民同志の信頼関係が壊されたカンボジアでは、住民参加を進める上で必要とされる、「他人同士が協力し合うこと」自体がとて難しいそうです。また、セミナーでも話があったように、男性の家庭放棄が多く、特に女性を貧困から克服させることが重要になっているそうです。そして、10月からは、カンボジア西部の、旧ポルポト派支配地域での地雷撤去後の開発支援プロジェクトが始まるとのことです。

最後に、ハビタット市民の会について聞いてみたところ、「進展が早いのでびっくりしている。市民に向けてのきめ細かい情報提供ができるようになって助かっている」と言われました。福岡を空けることが多いとのことですが、ますますのご活躍をお祈りいたします。

(担当：島 祐二郎)



### ハビタットの現地でのプロジェクトをわかりやすく紹介するリーフレット (英語版・日本語版)ができました。

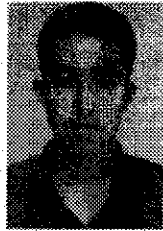
プロジェクトプロフィールと呼ばれるこれらのリーフレットは、最近ハビタット福岡事務所がアジア太平洋地域で支援してきた主なプロジェクトについて、その目的や実施の形態、地域住民参加型のまちづくりの進め方、プロジェクトの成果などを説明しています。希望される方には差し上げていますので、福岡事務所にお問い合わせください。

〈今回作成されたプロジェクトプロフィールの国・地域〉  
カンボジア、ミャンマー、インドネシア、ネパール、  
ベトナム、ブータン、インド、イラン



勉強会報告

第3回勉強会 1999年6月17日 フォトグラファー池口洋之さんが見たカンボジア



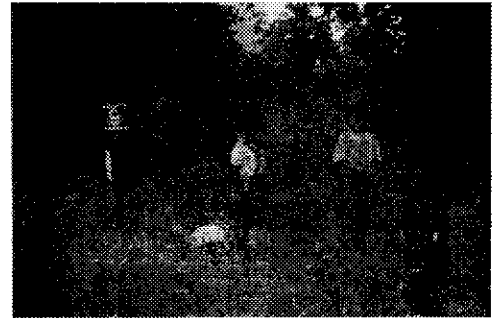
第3回勉強会の講師はカンボジアの地雷撤去活動などの取材を続けているフリーフォトグラファーの池口 洋之さんでした。自分自身が事故で六ヶ月間不自由な生活をしたことをきっかけとして地雷だけがをした人に関心を持つようになったそうです。

今回は、カンボジアの地雷や撤去状況というテーマで、スライドを使ってわかりやすく説明して

写真家の池口洋之さん いただきました。まず、カンボジアの生活を簡単に話していただいた後、地雷の埋設状況や、撤去の方法などを詳しく説明してもらいました。カンボジアは、地雷の埋設密度が世界最大であること、特にボル・ポト派の逃走経路であった北西部は、いまだに住民が地雷と隣り合わせに暮らしていること、住民の危険に対する意識が低いため、NGOが村々をまわって、啓発活動をしていること、さらに、地雷はすべて二人組による手作業で行われていることなど、初めて知ることが次々に出てきました。また、地雷被害者に対するリハビリ施設では、サイクリングやバレーボールといった実践的なものが行われていて、義足者たちの前向きな姿勢がとても印象的でした。

すべての説明がスライドを通してのものでしたので、額に汗を流しながら、地雷撤去作業をしている様子や、村の生活の様子などが手に取るようにわかりました。質疑応答も活発に行われ、参加者の関心の高さがあらわれていたと思います。

Reported by Shinobu Shimokoshi



地雷と共に暮らすカンボジアの子供たち ©池口 洋之

ハビタットアジア地域活動報告シンポジウム開催 1999年6月27日

アジア各地域でハビタットのプロジェクトに携わっている現地スタッフによる公開シンポジウムが、去る6月27日、ハビタット福岡事務所の主催で行われました。九州大学キャンパス内の会場は120名の聴講者でいっぱいでした。現地の様子を含め、スライドを用いながらの活動報告で「国連ハビタットとは、どのような活動を行っている国連機関なのか？」ということを知ることができました。また、各報告の間には「コミュニティー開発」「環境」「都市・農村計画」についてのパネルディスカッションも行われました。シンポジウムで発表された内容は報告書（英語のみ）として近々出版されます。

市民の会の手づくりレセプションで交流



レセプションでなごやかに 歓談する報告者と市民ボランティア



8カ国から参加したシンポジウムの報告者の皆さん



報告者の発表を熱心に聞く聴講者の方々

シンポジウム後19時より、アクロス福岡にてレセプションが行われました。市民の会が中心となって、ゆかた姿でホスト役をする中、和やかな雰囲気での2時間でした。シンポジウムでの発表者、国連職員、来賓、市民の会のメンバーの楽しい交流会となりました。

シンポジウムの報告者とテーマ (報告順)

- |                         |                                     |
|-------------------------|-------------------------------------|
| T. S. バルウオト (インドネシア)    | 「居住開発戦略の実施」(インドネシア)                 |
| ショー・マッカーシー (ミャンマー)      | 「コミュニティの上水道、公衆衛生整備」(ミャンマー)          |
| マイケル・スリングスピー (カンボジア)    | 「参加型都市開発のためのアノハソ市とミエティへの支援」(カンボジア)  |
| サマンサ・レイノルズ (アフガニスタン)    | 「アフガニスタン都市部におけるコミュニティの再建」           |
| 出口教 (九大大学院人間環境学研究所助教授)  | 「旧産炭地域におけるまちづくりへの取り組み」              |
| 竹沢尚一郎 (九州大学院人間環境学研究所教授) | 「環境破壊から環境創造都市へー水俣のケースー」             |
| キスмет・コサシュ (インドネシア)     | 「地方開発のための都市イニシアチブによる打開策」(インドネシア)    |
| テリー・スタンリー (バンコク)        | 「ハイ市、ホーチン市における都市管理及び計画能力の強化」(ベトナム)  |
| カウィック・スジアナ (インドネシア)     | 「農村と都市の連携による貧困の緩和」(インドネシア)          |
| ラメッシュB・ムナンカミ (ネパール)     | 「農村と都市の連携ー初めの一歩の都市開発に向けての歩みー」(ネパール) |
| テリー・スタンリー (バンコク)        | 「都市管理及び人間居住部門における計画能力の強化」(ベトナム)     |

## お知らせ

## 市民の会とハビタット福岡事務所のセミナーやイベント

毎年10月の第一月曜日は「世界ハビタットデー」で、世界各地で人間居住に関する記念行事が開催されます。今年の世界ハビタットデーは10月4日で、「Cities for All(都市一すべての人々のために)」をテーマに、中国・大連市が全体記念行事のホストを務めます。福岡でも、ハビタット福岡事務所、福岡県、福岡市、ハビタット福岡市民の会が協力して「世界ハビタットデー福岡1999実行委員会」を設置し、市民の皆さんと一緒に都市生活とハビタットの活動について考える行事を企画しています。お気軽にご参加ください。参加のお問い合わせ・お申し込みはハビタット福岡事務所まで。

## ～ 世界ハビタットデー福岡1999 ～

## ●公開セミナー 「Cities for All ～アジアの都市問題解決への協力」

日時：10月4日(月) 13:30～17:00 場所：アクロス福岡4階 国際会議場 同時通訳付き

パート1 報告発表セッション：アジアの都市問題に対する取り組み

パート2 フロアディスカッション：パネリストと来場者の皆さんとの意見交換

## ●市民フォーラム 「国連ハビタットって何だろう？」

日時：10月4日(月) 18:30～20:30 場所：アクロス福岡1階 円形ホール

パート1 もっと知りたいハビタットの活動 ビデオやスライドで見るプロジェクト

パート2 みんなで考える「Cities for All」 人間開発指数やベシックヒューマンニーズって何？

パート3 パネル・ディスカッション 福岡からできること、わたしにもできること

## ●写真展 「わたしたちとハビタット」

日時：10月4日～10月10日 10:00～19:00 場所：アクロス福岡2階 メッセージ・ホワイエ  
カンボジアで地雷と暮らす人々の写真やハビタットの活動を紹介するパネルを展示

## ●「地球市民どんたく」へのブース展示参加

日時：10月9日(土)～10日(日) 場所：ソラリアプラザ 1階 ゼファー

皆さんのご来場をお待ちしています！！

## ハビタット福岡市民の会事務局

〒810-0001

福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡8F

国連人間居住センター福岡事務所内

電話：092(724)7121/23

Fax：092(724)7124

Eメール：cshf@gol.com

ホームページもご覧ください

<http://www.fukuoka.unocha.org>

ホームページでは定例会・勉強会の報告や運営委員会の議事録も掲載しています。伝言板からメッセージも送っていただけます。

## ＜入会のお申し込み＞

気軽に勉強会や定例会へご参加ください。入会希望の方はお名前とニュースレターの送付先をハガキ、FAX、Emailでお知らせの上、年会費1,000円をお近くの郵便局でお振り込みください。

口座：ハビタット福岡市民の会  
01730-0-78434

## ハビタット福岡市民の会 事務局ボランティア募集中

平日の昼間の時間帯に事務局の業務(入会受付、会員連絡、ニュースレター編集など)をお手伝いいただける方を募集しています。関心のある方は、FAXかEmail、ホームページの伝言板でご連絡ください。事務局よりご連絡差し上げます。国際協力や国連の活動に関心があるけど、具体的にどうすればいいのか迷っているなら、一度ご連絡ください。

## とびくす

## ●「アジア太平洋都市サミット第3回実務者会議」

アジア太平洋地域の首長が一堂に会し、都市の連携とネットワークの構築を図るために、1994年からアジア太平洋都市サミットが開かれてきました。1995年からは都市問題を解決するために、都市行政の第一線で活躍している実務者レベルの会議も隔年で開催されるようになりました。今年は「安全な水道水の供給」をテーマに、11月30日から12月2日にわたり、第3回実務者会議が福岡市で開催されます。

## ●「99 森林と水のシンポジウム」

1999年11月24日(水) 14:00～16:40 アクロス福岡 B2F  
(財)福岡県水源の森基金が主催するシンポジウムで、今年は「水が奏でる森林と都市のハーモニー」をテーマに水源林の保全育成について考えます。基調講演には今井通子さん(登山家、医師)を迎え、パネルディスカッションには、ハビタット福岡市民の会の松田美幸さんもパネリストとして参加します。

## 編集後記

第二号いかがでしたか？

創刊号、第二号と陰の編集長松田さんのもと発行することができました。只今、早期自立を目指してニュースレターグループのメンバー募集中です。もっともっとハビタットや市民の会について知りたい方、何かを始めたい方、阿波踊りに興味のある方(?)、一緒に企画、編集、etc楽しみましょう！  
(ニュースレター担当：田村、古川)